
テイルズV S ファイアーエムブレム 世界最大のイス取りゲームキングオブチェアー！

パルポン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テイルズVSファイアーエムブレム 世界最大のイス取りゲーム
キングオブチエアー！

【Nコード】

N4011Z

【作者名】

パルポン

【あらすじ】

ryoukiさんの小説読んでたら結構面白いつてことで開催

ただ、原作無視のほぼオリジナルなのでその辺注意してください

まず始めに（前書き）

本気でこの小説は駄作です

まあとりあえず読んでみてください

まず始めに

ルール

テイルズオブV S ファイアーエムブレムのチーム戦の5 V S 5。

マップ内にある2011個ある内の10個がトゥルーチェアで5個座ったチームにキングチェアーの場所が解禁され、それにチーム全員が座ったらそのチームの勝ちとなる

ただし残りの2000個（念のため、10個はトゥルーチェアで1個はキングチェアー）ある内の500個にトラップが仕掛けてある100個は電気椅子、100個はタライ落とし、

そのほか300個はゲーム中での楽しみ。それぞれ100個ずつまた、マップ内に宝箱が複数設置されていてその中には多彩なアイテムがあったりトラップがあったりと・・・

チーム紹介

テイルズチーム

クレス・アルベイン（テイルズオブファンタジア）

スタン・エルロン（テイルズオブデスティニー）

カイル・デュナミス（テイルズオブデスティニー2）

ルーク・フォン・ファブレ（テイルズオブジァビス）

アスベル・ラント（テイルズオブグレイセス）

ファイアーエムブレムチーム
マルス（ファイアーエムブレム新紋章の謎）
ロイ（ファイアーエムブレム封印の剣）
リン（ファイアーエムブレム烈火の剣）
アイク（ファイアーエムブレム蒼炎の軌跡）
ミカヤ（ファイアーエムブレム暁の女神）

まず始めに（後書き）

念のために言っておきます

ルークは髪が短いほうです

キャラを良く知りたい人はググってください

その1（前書き）

あ、忘れてたけど時間は無制限です

その1

パル（ナレーション）「もうめんどくさいからちゃっちやと始めちまうぜ。では・・・」

全員「いや早っ!？」

ルーク「その前にマップはどんなんだよ!？」

「
パル（ナレーション）「え？遊園地に決まってるだろ？じゃあ・・・」

「
ピーーーーーーーーーーーー!!!!!!

クレス「・・・もう始まっちゃった」

スタン「よし！燃えるぜっ!」

と、元気よく走ったスタンだが・・・

スタン「あ、イスだ」

電気イスだ・・・

ロイ「し・び・れ・るう・・・」

ロイは痺れて動けない

一方その頃

アイク「・・・これか？」

ブー

アイク「違うか・・・じゃああれか？」

ブー

アイク「・・・これか？」

ブー

アイク「くそっ・・・じゃあこいつか？」

ブー

ガッシャーーン！！！！

タライだ・・・

アイク「くっ・・・！」

一方その頃

リン「見つからないな・・・あ、宝箱」

ガチャッ

中には・・・おとしあなのタネだ

リン「じゃあこの辺に設置しておこう」

ヒョイッ

リン「さてと・・・」

ブー

リン「違う・・・これかな？」

ブー

リン「じゃあ・・・これ？」

ブー

リン「・・・あれかな？」

ブー

リン「うゝん・・・イス取りゲームなのに難しいなあ」

「うわっ!?!」

リン「あ、だれか引つかかったみたいね・・・これ?」

ブー

リン「あ、じゃあこれ?」

ブー

ガシャーーン!!

リン「いったあゝ・・・タライだったみたい」

ミカヤ「いたたた・・・」

リン「あれ?ミカヤどうしたの?」

ミカヤ「今さっきおとしあなにかかってしまって・・・」

リン「あ、それ私だ」

ミカヤ「どうしました？」

リン「ううん、なんでもない」

一方その頃

カイル「宝箱みつけ！えーっと・・・ヒントペーパーだ！」

ヒント

遊園地で一番高い所の近く

カイル「あ、じゃあ観覧車かな？」

移動するカイルだが・・・

マルス「（ふ）ん・・・じゃあ後追おうか・・・」

一方その頃・・・

ルーク「くっそー！見つかんねー！」

何度も座ってるものなかなか当たらない

ルーク「ったく・・・これ、トラップなんだろう？座るわけねえっつ
」の」

怪しんでこのイスから離れる・・・

アイク「・・・あれか？」

ルーク「ん？」

ピンポーン

なんとそのイスはトゥルーチェアだった！

ルーク「なっ!?!」

アイク「よし・・・」

ルーク「(くっそー!!折角近くにあったのに!!!)」

一方その頃・・・

カイル「・・・あれかな?」

どうやら見つけたらしい。が・・・

ヒュッ、ベチャッ

カイル「!?!これって・・・」

マルス「ごめん・・・でも僕達は負けるわけにはいかないんだ!!」

ブー

ドッコーン！！！

イスが爆発した

マルス「・・・（気絶中）」

カイル「あ、危なかった・・・」

ちなみにカイルは蜘蛛のネットというトラップに縛られて30秒間動けない

その2（前書き）

さうさと終わらせちゃおう・・・

その2

カイル「えーっと・・・おかしいな・・・一番高いところって観覧車ぐらいしか思いつかない・・・」

カイルは一応よろよろしてるときになにか発見した

カイル「あ、もしかしてあそこか？」

目線の先は・・・

この遊園地で一番高い山、アイス山だ。

なお、アイス山といっても雪はない。

カイル「もしかして・・・まいいや。いつてみよう」

~~~~~一方その頃~~~~~

ブー

クレス「うう・・・またはずれか・・・」

スタン「あ、クレスー。そっちはどう？」

クレス「全然だめだよ・・・なかなか見つからない」

スタン「そうなんだ。まあがんばってね」

クレス「分かってるよ、スタン」

スタンと別れてその後・・・

クレス「あ、箱見つけ！えーっと・・・ヒントペーパーか」

ヒント

自然が作りし洞窟の宝の在り処

クレス「たしか・・・ここから湖に浮かんでるライシン島だったは

ずだ。行ってみよう」

しかし、近くに・・・

？「なるほどね・・・」

## その2（後書き）

短いなー

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4011z/>

---

テイルズVSファイアーエムブレム 世界最大のイス取りゲームキングオブチ

2012年1月10日20時50分発行